

人と自然をつなぐ 銀座のミツバチ

銀座ミツバチプロジェクト副理事長

田中淳夫
たなか あつお



皆さんは都市の自然というどんなイメージを想像するだろうか。そもそも都市に自然はないと思っ
ている方も多いのではないか。2006年、縁あつ
て銀座周辺で働く有志たちとビル屋上でミツバチを
飼うプロジェクトが始まった。17年後の2022年
は、銀座3カ所、丸の内2カ所の養蜂場で2200
キロの蜂蜜を収穫。国内生産量が2800ト程なの
でこの狭いエリアで0・08%の収穫が出来た。
銀座の街は、徳川家康が江戸を築いた際に神田の
山を切り崩し、江戸前島と言われるアシが生い茂る
島を整地して誕生した。以来400年、町人地とし
て発展してきた銀座の街から私たちは自然環境の大
切さを発信している。

ミツバチの行動範囲は3キロ四方。2キロ以内に
皇居、浜離宮、日比谷公園、さらに街中のマロニエ

通りのマロニエ、並木通りのリンデン、皇居を囲む
内堀通りはユリノキ、霞が関はトチノキ等々、街路
樹がたくさんの蜜源となる。樹々は動けないので、
花を咲かせてもポリネーターと呼ばれる送粉者が来
なければ実をつけられない。ミツバチ達が訪花する
ことで受粉し、実をつけ鳥が食べて種を遠くへ運ぶ
まさに街の中で命がなが
り始めた。春先、デパート
駐車場などに南から渡って
来るツバメ達が営巣する。
卵から雛がかえるとたくさ
んの親ツバメが栄養価の高
いミツバチを与えて子育て
をしている。都市鳥研究会
の報告では2022年30羽



ビル屋上でのミツバチ飼育

の雛がかえったそうだ。今、養蜂場周辺では雄のイ
ソヒヨドリがミツバチを食べながら美しい鳴き声で
さえずっている。海辺の崖地で暮らしていたこの鳥
が銀座で雌に求愛している。そう、シテイボーイに
なったのだ。

最近、国連の発表によると、都市人口が農村人口
を超えたそうだ。この傾向は止まらずに、ますます
狭い都市に人口が集中していく。人新生の時代と言
われる人間の活動が、地球環境に大きな影響を与え
ている事実が分かって来た。COP会議で、温暖化
による気候変動で平均気温が2℃上昇するとサンゴ
の9割、昆虫は4割が消えると言う。昆虫の減少は、
それを捕食する鳥も影響を受ける。さらに彼らに受

出来ないかと考えている。

今、銀座ミツバチプロジェクトは、デパート、商
業施設など様々な屋上で「ビーガーデン」と称する
屋上緑化を進めている。蜜源だけでなく芋を育て芋
焼酎を作り、コウゾとミツマタを植えて銀座産の和
紙まで作っている。しかし、手間が掛かる。福祉作
業所に管理をお願いし、コストを下げるために大分
県のカボス、福井のスイセン、福島の菜の花等、全
国から苗を提供いただく。収穫時にはマルシェ、屋
上で交流会、さらには蜂蜜で商品開発をして、デパ
ートで販売するなどの企画をしてきた。見向きもさ
れなかった屋上に多様な人が集い、都市農村交流、
ビジネスマッチングの場に変身している。

粉を頼む樹々も、
花を咲かせても
実をつけず命が
つながらない世
界となる。

これから長く
生きる子どもた
ちは、この激し
く変化する気候
変動の時代を生
きなければなら
ない。だからこ
そ、その解決の
1つに都市から
環境をデザイン

現在、日本橋の高速道路を地下化する工事が始ま
ったことで、西銀座デパート上空の道路が使われな
くなる。さらに東側築地川掘割の高速道路が耐震補
強で蓋掛けされ、これらが緑化される予定だ。という
ことは、銀座に3・2キロに渡り緑の回廊が出来る。
ニューヨークのハイラインやソウルの清溪川を超える
規模の世界に誇るガーデンシティが誕生する。生
物多様性や循環型社会、そしてSDGsは義務では
なくて、見方を変えれば戦略的に発信すべき新しい
ブランド価値。銀座から「夢の扉」を開いてみたい。



中央区築地川アメリティ整備構想イメージ

時の調べ Essay

略歴等
2006年、銀座周辺で働く有
志とともにビル屋上でミツバチ
を飼う「銀座ミツバチプロジ
ェクト」を立ち上げ。ホテル、パ
ー、スイーツ店、百貨店などで
蜂蜜が商品となり話題となる。
07年から「ビーガーデン」と称
する1000㎡超の屋上菜園を開
始、ここに花木を植え交流が
広がる。10年、農業生産法人銀
座ミツバチを設立、同年「環境
大臣賞」受賞。12年、農林水産
大臣より「食と地域の絆づく
り」優良事例として表彰受賞。
13年、NKKI「脱炭素アワード
」プロジェクト部門・大賞「受
賞」16年、銀座ミツバチプロジ
ェクト理事長、21年から現職。
都心繁華街で地産地消が実現し、
世界からも注目を集めている。



銀座ミツバチプロジェクトメンバー